

氏 名	高橋 美砂
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 甲第 7003 号
学位授与の日付	2024 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 社会環境生命科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Antimicrobial prescription practices for outpatients with uncomplicated cystitis in Japan (外来での単純性膀胱炎患者への抗菌薬使用状況に関する後ろ向き・多施設研究)
論文審査委員	教授 松下 治 教授 頼藤貴志 准教授 内山淳平

学位論文内容の要旨

本研究は、単純性膀胱炎に対する抗菌薬処方状況について、背景因子に基づいて層別化解析することを目的とした。2018 年 1 月から 2 年の間に 6 つの医療機関の外来を受診した患者のうち、急性単純性膀胱炎(ICD10 コード N300)が記録されている 20 歳以上の者を対象に、診療録から直接情報収集し解析した。1455 名の患者データを収集し、適切な情報が収集できた 902 例の解析を行った。50 歳以上の割合は 81.2%で、女性が 82.6%を占めていた。診療科は内科 9.4%、泌尿器科 74.3%、その他 16.3%であった。尿培養は 93.0%において陽性で、起炎菌は大腸菌が 58.4%と最も多かった。抗菌薬は 98.0%に処方され、そのうち広域抗菌薬の割合は 69.1%であった。女性患者に限ると広域抗菌薬の処方率は 65.4%と、既報よりも低い結果となった。高齢層 (≥50 歳)、男性、内科受診が、広域抗菌薬の処方に関連していたが、膀胱炎の再発には年齢、性別、抗菌薬のスペクトラム(広域 vs 狭域)は関係していなかった。レセプト情報に基づいた単純性膀胱炎に対する抗菌薬処方データは報告されていたが、本研究ではすべての臨床情報を診療録から直接収集した点において結果の妥当性が高い。本結果は、我が国における急性単純性膀胱炎患者に対する抗菌薬処方をモニタリングするための指標となることが期待される。

論文審査結果の要旨

2018～2019 年に 6 医療機関を受診した外来患者で病名に急性単純性膀胱炎を含む 20 歳以上の者 1455 名を対象とし、臨床情報を直接収集できた 902 例を階層化して抗菌薬処方との関係性を解析した。内訳は 50 歳以上 81.2%、女性 82.6%、診療科は内科 9.4%、泌尿器科 74.3%であった。尿培養陽性は 93.0%、起炎菌は大腸菌が最多であった。抗菌薬は 98.0%に処方され、広域抗菌薬が 69.1%であった。女性の広域抗菌薬処方率は 65.4%で既報より低かった。高齢層、男性、内科受診が、広域抗菌薬の処方に関連していたが、再発との関係性は認めなかった。

委員から、研究目的と比較対象集団の整合性、対象からの脱落理由、多変量解析に用いた変数、性別による処方薬の差異等について質問があり、本研究者はいずれにも限界性を踏まえつつ明解に回答した。

本研究は、臨床研究において散見される限界性に着目し、診療録の詳細な調査と分析により抗菌薬処方における重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。